

金目エコだより

発行日 平成 23 年 6 月 30 日

発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
広報部

連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

エコミュージアム金目まるごと博物館とは？

委員長 米村 康信

エコミュージアム金目まるごと博物館が発足してから今年で 5 年目を迎えました。まだ多くの
人から「金目まるごと博物館ってどこにあるの」、「どんな建物なの?」、「どんなものが展示して
あるの?」と、よく聞かれる事があります。広報紙の創刊号の発行に際し、同博物館の理念や活動
を紹介したいと思います。

エコミュージアム金目まるごと博物館とは、

エコミュージアムとは Ecology (生態学) と Museum (博物館) を組み合わせた造語で「エコ
ミュージアム金目まるごと博物館」は、金目の人々の生活と、金目の自然・文化および社会環境
の発展過程を史的に地域住民の学校として研究、調査し保護センター的役割を担って、金目に存在
する遺産・遺跡を現地において守り育て、金目地域の発展に寄与する「野外博物館」ということに
なります。

さらにもう一步進んでエコミュージアム金目まるごと博物館は、いかに地域に貢献できる人材を
育成し、そしてその人たちによって 新しい町づくりをするか、即ち、**金目の進むべき道を探し求
める研究所的機能を持った博物館**と言えましょう。

エコミュージアム金目まるごと博物館の構成と事業

エコミュージアム金目まるごと博物館が「地域住民の学校」、「自然と文化の保護センター」、「金
目の進むべき道を探し求める研究所」の機能を持って事業活動を進めるために、同博物館は①自然
・景観部会、②歴史・文化部会・③産業部会、④情報・イベント部会の 4 部会から成り、約 70
余名の会員が、いずれかの部会に属し、それぞれの部会で会員の会員による勉強会を開き、またそ
の実践活動として史跡めぐり、景観めぐり、自然観察会、竹の子まつり等を行っております。

事業活動としては 4 月の「金目桜まつり」、8 月の「金目灯ろう流し」(共催)、11 月の「金目
収穫祭」、3 月の「秋山博墓前祭」を開催、また不定期であります 小学校、中学校を対象とし
た「学習会」または「出前授業」を行っております。

年間事業と 4 部会の活動とは別に、「地域住民の学校」と言える「**可奈比(かなひ)塾**」、「**竹塾**」
「**家庭菜園塾**」、「**自然体験塾**」等を開塾し、それぞれの塾生は知識、技術を磨き、そして地域の学
芸員になろうと励んでいます。尚 23 年度予算(収入)は教育委員会からの委託費、会員の会費、
会員以外からの賛助会費、出版物の販売収入、繰越金等で
約 150 万円です。

*会員一同、親しまれるエコミュージアム金目まるごと博物館に
したいと努力しております。今後とも金目の皆様のご理解と
ご協力を宜しくお願い致します



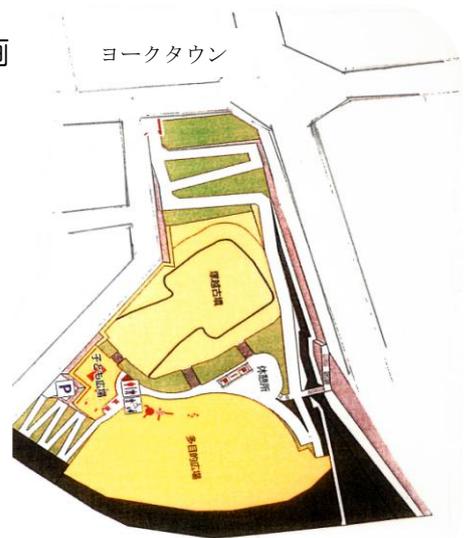
古代ロマン “塚越古墳公園” オープン！

さる4月27日に開園した「塚越古墳公園」は、当地区 区画整理事業の中で、文化財保護の観点から、極力原形を残して造られた 面積1haの近隣公園です。

その中心である塚越古墳は、古墳時代前期（4世紀）に築造された前方後方墳です。その規模は、周溝も含めると55mもある県内最大規模の後方墳です。

金目川周辺を治めていた首長のもので、地域全体を見渡せる位置に築かれております。

この古墳は伊勢原台地、北金目台地、そして大磯丘陵との関係やその勢力圏、また社会構造の変化を知る手掛かりを秘めた夢多き古墳です。所在地 平塚市北金目2丁目15番街区



金目広場で竹の子まつりを開催



6月12日（日）曇り空でしたが100名近い方々が賑やかに参加されました。金目エコ会員が担当する各コーナーでは、和やかな雰囲気の中で、親子で竹製玩具に興じる微笑ましい光景が多数見られました。コーナーに置かれた紙鉄砲、ブンブンゴマ、竹とんぼ、竹笛、竹馬などで熱心に遊ぶ子供たちの姿がとても印象的でした。

この子供たちの姿を見て感じた事は、“微調整の楽しさ”です。現在、私たちがとり囲む身の回りのモノは、ボタンを2～3回押せば事足りるモノで満ち溢れ、そこには私たちユーザーが調整を要する余地はほとんどありません。ところがこの会場で子供達が手にする玩具は、性能をきちんと発揮させるためには何度も“微調整”が必要なモノばかりです。

その“微調整”という作業に一心不乱に取り組む子供たちの姿を見てみると、玩具本来の楽しさは、煩わしい筈のこの“微調整”にあるのではないかと思いました。今、巷に溢れるボタンを押せば事足りる玩具には、楽しみが半分しか詰まっていないのかもしれない。

後半にはジャンケン大会があり、本日お手伝いくださった南足柄の「足柄竹友会」小瀬村 博さんから提供された、竹製のザル、写真立てが賞品として勝者の皆さんに贈られました。

最後に、ボランティアの方々が、かまどで薪を“微調整”しながら炊いてくださった竹の子ご飯を御馳走になり、フィナーレとなりました。



〈本広報紙の愛称募集〉

この度金目エコの広報紙を発行する事になりました。金目エコのPRを中心にエコだよりとして育てたいと思います。年数回の発行を予定しております。皆様に愛され、知名度が上がる様に、愛称を皆様から募集させて頂きたいと思います。創刊号は仮に「金目エコだより」と致しましたが、皆様からの提案を受け、当広報部で選考・決定させて頂きたく考えます。御提案のある方は、愛称の趣旨を添えて金目公民館までご連絡お願い致します。 金目公民館 ☎ 58-0101

金目工コだより

発行日 平成 23 年 10 月 10 日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

野菜塾・開講したよ！



産業部会々員と公募の 5 名が参加して 5 月 22 日に「野菜塾」が始動しました。

ゆくゆくは金目の特産品を見出したいと思っておりますが、今年は季節の野菜キュウリ、トマト、カボチャ、マクワ瓜を作ることになりました。

公民館北側の畑をお借りし、作業は日曜日の朝 7 時から 1 時間ほど植付け、添え木、追肥、草取り等を行いました。朝から声を出し、体を動かすと身体が快調で思わぬ恩恵を受けました。



6 月末頃からキュウリ、トマト、ナスが採れ始めました。

汗を流して作った野菜なので形が少々いびつでも美味しく

太陽の恵みを頂きました。野菜の植え付け時に苗の間にマリーゴールドとバジルを植えたのが

良かったのか、農薬は一度も使用しませんでした。虫の害も病気もほとんどなく、8 月末まで

収穫ができました。カボチャの出来はいまひとつでした。マクワ瓜は子供のころに食べたきりでしたが、冷やして食べるとほんのり甘く懐かしい味でした。野菜塾は 9 月 2 日で閉講となりました

が畑には大豆、黒豆、里芋が育っています。興味のある方は産業部会にご連絡下さい。

そうめん流し “大盛況”

産業部会竹塾と公民館共催のそうめん流しが 7 月 31 日（日）金目ふれあい広場で開催されました。

竹塾は金目の竹林を整備している有志の集まりで、間引きした竹を使って親子で遊び、「竹に興味をもってもらおう」との思いで、そうめん流しが企画されました。広場では竹を使い自分で作って遊ぶ水鉄砲、竹ボックリのコーナーが盛況でした。公民館の運営委員の皆さんの御協力です。そうめんの準備が進み、会場には 2 本の竹樋が設置されて グループ毎にそうめん流しが始まりました。美味しい美味しいと子供達が食べている間合いを計って氷やミカンが流されると歓声が湧き大はしゃぎでした。141 名の親子と楽しめたそうめん流しでした。



準備に精を出す
竹塾会員



第11回金目灯ろう流し

8月13日(土)金目親水公園にて「第11回金目灯ろう流し」が開催されました。

当日は、地元太鼓の会の演奏や盆踊りの後、メインの灯ろう流しへと移り、多くの方々が、それぞれの思いを灯ろうに託し清水川に浮かべました。フィナーレは皆様の灯ろうで形作られた「平和」の二文字を囲んでイベントは終了となりました。この「平和」という文字を見ていて今年は特にこの二文字が重く感じられました。



「平和」で真っ先に思い浮かぶ言葉は、「反戦」ではないでしょうか。しかし「平和」には「反戦」に限らず様々な意味があることがわかります。

3月11日に被災された地方でも、夏には同様なイベントがあったことと思われませんが、例年通りに開催できない地域が多数あったはずで

この金目地域は幸運にも被災は免れ、例年通り同じ場所で、同じ人々の手で、同じ内容を繰り返すことができました。これがどれほど幸せで「平和」なことなのかを考えさせられる今年の灯ろう流しでした。

地名シリーズ

つか ごし
北金目の 塚 越

次の2つは読みが違います



つかごしこふん
(塚越古墳)

つかごしこふんこうえん
(塚越古墳公園)

地形地名(その土地の地形をもとに付けられた地名)の一つ。北金目台地の一番高い所に位置し、ヨークマートの南側で地元ではジシン塚と呼ばれています。ツカ(塚、束、筑)とコシ(腰、越し、輿)を重ねた地名。

- ① ツカ(塚)は、土が盛り上がり高くなった所。土を盛り上げて造った墓・古墳・丘。
- ② コシ(腰)は、山頂。谷の険阻な所。崖地。
- ③ コシ(越)で、「越す所」か 現地形は、北金目台地の中で土が盛り上がった最も高い所の急傾斜地に囲まれた段丘地で、こうした台地に古墳が造られた。

*市内では、小鍋島と田村に同じ地名があります。 ・小鍋島は「塚腰」です。

お知らせ

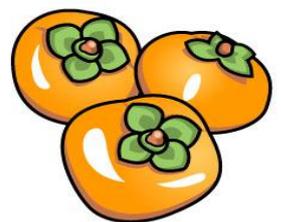
金目の収穫祭、11月6日に開催 金目エコ主催の『平成23年度収穫祭』を行います。

金目小学校西隣の金目ふれあい広場で、10:00~14:00頃迄行います。

フリーマーケットの他、新米ご飯や豚汁のサービス、太鼓演奏等金目の魅力を発信します。

*尚駐車場が狭いので出来るだけ自転車や徒歩でご参集ください。

*雨天の場合は金目公民館 体育館で行います。



編集後記 金目エコの活動を皆様にとって頂くために今年6月30日付で創刊号を出しました。本誌では、最近3ヶ月間に行われたイベントを紹介すると共に、愛読して頂けるよう地域を紹介する『シリーズもの』を登場させました。次はどのテーマが出るかと期待して頂ければ幸いです。

<会員募集> この活動を通じ、金目エコの活動に興味をもたれた方は是非会員として登録して頂き、金目地区をより詳しく知ると同時に、地域の発展事業に参加して頂きたいと思っております。創刊号にも4部会の紹介をさせて頂きましたが、自然景観、歴史文化、産業、情報イベントの内どの部会に所属したいかも決めて申し込んで下さい。

申込先: 金目公民館 (0463-58-0101) に直接又は電話で、氏名と住所、電話番号をお伝え下さい。

金目エコだより

発行日 平成 24 年 2 月 1 日

発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
広報部

連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

食った！ 飲んだ！ 芋煮会

産業部会の主催で、昨年発足した野菜塾が 6 月に植え、猛暑の中、土寄せ・草取りと汗水流して手をかけて育てた里芋が見事にできました。どこの畑も日照りで出来がよくなかったのですが、水捌けの悪い田んぼを逆に活かして里芋を選定したことが実りに現れました。この豊作を祝って芋煮会を開こうと野菜塾が音頭をとりました。

12 月 9 日 2 時、集まったメンバーの慣れない手つきで準備開始「生まれて初めて里芋の皮を剥いた」などと和やかな談笑で仕込みが進み、味付けは柳川館長にお願いしました。6 時には 20 名の参加者が揃って乾杯！芋煮に舌鼓を打ちながら、「次は何を作付けしようか」あれやこれやと話題は尽きず、鱈腹大地の実りをいただきました。イカと里芋の煮付けは絶品、ごちそうさまでした。24 年度の野菜塾は 5 月開講予定、産業部会で 4 月以降に塾生募集をいたします。



金目公民館主催・家庭教育学級

“もっと知ろう・楽しもう・金目再発見「かなひ塾」”に参加して

日 時：平成 23 年 10 月 13 日 9:00~12:00

参加者：39 名（金目エコ・ガイドボランティア 4 名）

子育て中の若いお母さんを対象にした金目の北方の史跡巡りに参加し、ガイドを致しました。短時間でしたが大変熱心に金目地区の歴史を研修して頂きました。金目川と大堤の関係、平塚市文化財の北金目神社、古代ロマンを感じる塚越古墳、そして植物と環境を考えた親水公園と盛り沢山でしたが、金目の良さを五感一杯に感じ取って頂けたと思います。下記に参加者の感想文を掲載させて頂き、報告と致します。



感想① 楽しくあっという間の時間でした。昔、金目川は鈴川の方に流れていた事、北金目神社が市の重要文化財である事、片葉の葦の伝説、象の箱根越えなど知らなかった事ばかりで大変勉強になりました。子供達に教えて家族で行ってみたい。（富倉まゆみ）

感想② こんなに歴史が有り、自然が有り、知らずに住んでいました。地域を知ることによって愛着もわき、活性化に繋がっていくエコミュージアムの趣旨を体験できました。（佐藤好美）

地名シリーズ

南金目 田子嶺（タコミネ） 田子窪（タコクボ） 共に、南金目台地の東部にある地形地名。タコとミネ・クボを重ねた地名。（1）タコは蛸・多古・多胡と同じ地名にてタガフ（違う）に関連し、崖や急斜面で凸凹が有り食い違った段差のある地形を言う。ミネは嶺・峰にて山頂を言い、クボは久保と同じで窪んだところを言う。つまり「山と山に囲まれた段差のある所」を言う。周囲にある字名の「腰巻や「膳棚」等からも推測される。

楽しかった収穫祭



「金目ふれあい広場」の完成にあわせてスタートした収穫祭の第5回目が11月6日に行われました。当日は朝から生憎の小雨模様で会場を急遽、金目ふれあい広場から金目公民館の体育館に変更して実施されました。館内では外の雨模様とは違って、ふれあいフリーマーケットは金目産の野菜・名産品、手芸品、雑貨店、焼き鳥、焼き芋店等が並び、昨年に比べ来場者は少なかったものの賑わいを見せ、お店の人と地域住民とのふれあいが出来ました。一方、豚汁コーナーでは金目産の新米ご飯と野菜をたっぷり使った豚汁400

食分が無料配布され、秋の味覚を堪能でき、豊かな自然に囲まれ金目地域を実感することが出来ました。また、昔遊びコーナーではコマ、メンコ、ベーゴマ、輪投げ、あやとり、竹ポックリ等、昔懐かしいおもちゃで遊ぶことができ、親と孫のふれあいも見ることが出来ました。中央広場では長寿会によるダンスが披露され、その踊る姿から金目の熟年パワーを感じとりました。最後に、お米大抽選会では金目産の新米キヌヒカリ3合、50袋の賞品が用意され、当選した人の喜ぶ様が秋の収穫の喜びと重なり、素晴らしい金目の収穫祭でした。

《チャレンジ金目 55問》

金目歴史検定 3級

第1問 金目観音は、坂東十三観音霊場の何番目の霊場でしょうか。

金目エコミュージアム活動に参加して

《平塚・金目 再発見》

「自然・景観部会」「歴史・文化部会」所属 道村 康博

金目エコミュージアムの活動に参加して半年、歴史文化部会は毎月一回公民館会議室での座学が実に興味深い。集まる皆さんは金目地区の古い文献を良く探し研究されており、その文献に対する知識が豊かで毎回感心しています。11月には「金目川の源流を訪ねて」に参加、阿夫利神社下社よりカゴヤ道を登り、林道を春嶽沢に下ると左右二ヶ所、岩の裂け目より轟音をともない水が噴出しているのではないかと、豊かな大山水脈を見、感激の瞬間でした。

一方、自然景観部会は金目エコミュージアムが計画する・季節のイベント・竹林整備等の積極的な取り組み・北金目真田のウォーキングなどに参加して金目の豊かな自然環境と歴史文化を再認識したと同時に、この木・林・川・丘・塚・太古の住居跡・歴史的建造物などを出来る限り「自然に美しく」残すことの大切さを痛感しています。このような金目エコミュージアム活動を通じ、より住み良い地に発展させるには活動の輪が大きくなる事だと思います。地域の歴史・文化、自然・景観、農・産業、に興味ある方は是非一緒に活動しませんか？お待ちしております。更にエコミュージアム活動を通じ多くの知己を得るのはかけがえの無い事です。

《秋山墓前祭》と《ハイキング》のお知らせ

* 2月25日(土)に金目ハイキングを計画。スカイツリーが見られる場所にもご案内します。お問い合わせは金目公民館へ。

* 来る3月20日(火)10時~11時、金目エコミュージアム主催の「秋山博墓前祭」が南金目寂静寺で催されます。平塚の福祉の父である秋山博先生は、明治16年南金目に鍼灸院を開業し、中郡鍼学講習会や鍼灸按摩組合を組織しました。さらに明治43年には私立中郡盲学校を開校し、盲人の福祉と教育の基礎を築きました。先生の遺徳を偲び、毎年春分の日には墓前祭を行っております。どなたでも参加できますので、ご参集ください。(雨天決行)

《編集後記》

『チャレンジ金目 55問』は、金目エコ歴史文化部会が平成22年3月に発行した、いわゆる金目の歴史検定で、2級と3級のレベルがあります。今後この紙面に連載します。なお、3級の金目地区小学6年生の正解率は89%でした。

(第1問の答え：七番目)

金目エコだより

発行日 平成 24年 5月 1日

発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
広報部

連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

“秋山 博 墓前祭” 10回目を記念し資料展を併せ開催



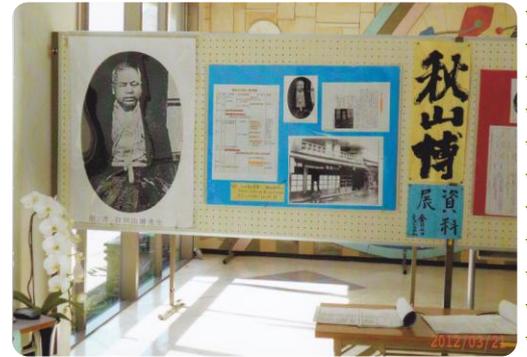
金目地区社会福祉協議会 会長 中村 正賢

晴天に恵まれた春分の日、南金目の寂静寺に於いてエコミュージアム主催による秋山博墓前祭が行われました。来賓に県立盲学校の校長を始め、卒業生の方々、市議会議員、地元市議会議員、地元の自治会、民児協、社協、エコ会員その他多数が参加され盛大に行われました。

大久保住職による丁寧な読経から始まり、米村康信委員長の挨拶や秋山博の紹介等がありました。秋山先生は目の不自由な人の

指導は断片的な指導ではなく、系統的学問的指導が必要であること、また明治新政府の医療行政整備のもと公布された県令「鍼灸営業取締規制」に対処するために、学校が必要であると説かれました。財政的に苦しい中で地元の自由民権家トリオに支援を求めたり、県へ支給を要求されたりして私立中郡盲人学校（現県立平塚盲学校）設立にこぎつけられました。秋山先生のこの熱意・意気込み、あきらめない・粘り強い精神を私たちも受けついで頑張っていきたいと誓いました。

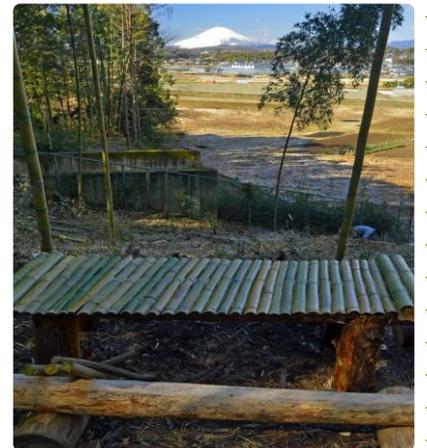
そして最後に全員で墓前に線香を手向けました。また、今年は10年目であり、平塚盲学校のご協力を頂き金目公民館にて資料展を併せ開催いたしました。明治の先人たちの先進性と心の健全性を知り、今、私たちは地域の為に何をなすべきかを考えさせられました。金目公民館の御協力を頂き、期間を一週間延長して好評裏に幕を閉じました。



竹林の楽しみ 金目エコ 竹塾 閑人間 岩男良助

金目エコが主催する、月一度の狸久保の竹林整備が始まり、5年が過ぎました。地主の許しを得て間伐に入り、遊歩道等を整備して現在に至っています。人の手が入らない竹林は荒れ放題で、立ち枯れや雑木等、月一度の整備ではとても追い着きません。それで有志で週一度手を入れて、ようやく太陽の光が射し込み空の青さが感じられる状態になりました。自然は人が手を入れる事により、人と共存できる環境に変化してくれるものだと感じています。

目の前に富士山、手前に土屋、青柳の町並み、右手に丹沢、大山を望み、梅林や枝垂れ桜もある絶景ポイントです。ぜひ一度足を運び、竹林を散策してみてください。心を癒す糧にして頂ければ幸いです。なお、現在竹林の中に散策コース作りを行っていますが、私たちと一緒に汗を流して頂ける仲間を募っています。見学のみでも構いません。毎週水曜日、狸久保の竹林で作業していますので、よかったですら気軽においで下さい。



チャレンジ金目 55問（金目歴史検定 3級）

第2問 4世紀ごろに造られた北金目にある塚越古墳の形は、何というでしょう。

- ① 円墳 ② 方墳 ③ 前方後円墳 ④ 前方後方墳

春うらら、金目桜まつり



今年も金目川沿いの桜が咲いた。人々が彼らの存在を意識しようがしまいが、毎年淡々と自分の役割を確実にこなしていく姿には畏敬の念すら感じられる。

4月8日(日)金目ふれあい広場にて、金目桜まつりが開催された。会場では史跡・文化財めぐりや野点、フリーマーケットが行わ



れた。また昔の遊び広場やお話の会のコーナーも設置され、琴の生演奏がBGMとして流れるなか多くの方々に賑わった。

会場を見て感じることは、世代や地域を越えた人々のつながりではないだろうか。お年寄り子どもが笑顔で語り合う姿や、フリーマーケット会場では隣り合うブースの人達がお互いに助け合いながら出店準備や片づけをされる姿が多く見られた。

現代は世代や地域のつながりが希薄と言われている。昨年は「絆」という言葉がこの国で流行した。しかし有事の際の「絆」ではなく、普段からこのような行事をとおした人々の「絆」が必要と感じるのは私だけでしょうか。(松本勇司)

出たよ！ 『金目へようこそ』

金目エコでは、エコの活動と金目の歴史と自然を紹介したガイドマップを発行した。4人の編集委員が約1年検討を重ね、金目の魅力を発信できる体裁(A2判)にまとめ上げた。金目公民館(58-0101)での販売の他、各種行事の際に1部200円で販売している。

『エコミュージアム金目まるごと博物館へようこそ!』と題し、歴史、文化、自然が要領良く、手作りの図形と共に記載され、おすすめガイドコースも紹介されている。金目川を挟み北と南に分けたコース、古代ロマン・自由民権・学びの道コース、里地里山の散策コースが用意され、楽しみながらウォーキングが出来そうだ。今後のガイドツアーで参加者に提供し、金目を広くPRするツールとして利用して行きたい。(添田吉則)



この花！ 桜の花？



桜の花とは思えないこの花(写真)はウワミズザクラという。金目地区では通学橋一吾妻橋間の右岸土手(サイクリングコース)で見ることができる。花期は葉が十分に開いた4月

下旬から5月初め。枝の先に長さ6~8cmの円柱状に、白色5弁の花を多数密に付けて開花する。9月頃に赤い果実を付ける。漢字で「上溝桜」と書いてウワミズザクラと読むが、名前の由来は、裏に溝を彫った鹿の肩甲骨あるいは亀甲を、この木を燃やして焼いたときの割れ目で占いをしたことによる。正しくは「占(裏)溝桜」がウワミズザクラに訛ったと考えられる。(米村康信)

地名シリーズ

真田 烏啼 カラスナキ

真田西部の秦野市・大根との境にある地形地名カラ(涸)とス(州・洲)とナキ(啼・泣)とを重ねた地名 ①カラ(涸・乾)は「水の干上がった」「水の少ない、乾いた」の意味。②ス(州・洲)は、土砂が堆積して盛り上がった所 ③ナキ(啼・雑)は、土地の削られた、崩れた、浸食された地形の意。北金目の舌状台地が浸食崩壊し、土砂が堆積した傾斜地を言う。また一説に、国府祭に向かう比々多神社の神輿がこの地を朝方通る頃、烏が啼いたので此の地名が付いたという伝説も有る。(柳川勝正)

編集後記

3, 4月は墓前祭と桜まつりの二大イベントがあり、これらをタイムリーに報告すべく第4号を発行しました。

(チャレンジ55 回答: ④ 前方後方墳)



金目エコだより

発行日 平成 24 年 8 月 1 日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

金目エコ 24 年度計画決まる

5 月 11 日金目エコの総会が開かれた。米村委員長の「金目エコは平成 19 年 6 月 30 日にスタートし 6 年目を迎える。これまで歴史、自然、産業の 3 冊子と『金目へようこそ』のパンフを発行してきた。新年度はハード面に力を入れたい。」との挨拶で始まり、来賓の後藤社会教育部長が「町づくり政策室在籍の折、土井浩先生から金目エコの紹介が有り興味を持ちました。最近 5 年間の活動は素晴らしい。公民館とリンクした活動をこれからも宜しくお願ひしたい。」と祝辞を述べられた。平成 24 年度は約 150 万円の予算で、各部ごとに上のような事業が計画されています。

・本部事業 5 大事業（4 月桜まつり、8 月灯ろう流し、11 月収穫祭、随時出前授業、3 月秋山博墓前祭）、案内板設置、ガイドボランティアの会設立、博物館との共同事業

・自然・景観部会 自然景観めぐり、景観地の管理、狸久保の自然景観づくり、他

・歴史・文化部会 可奈比塾の推進、俳句小冊子の発行、出前講義の推進、エコ文庫の開設、他

・産業部会 野菜塾、竹の子まつり、そうめん流し、竹塾、他

・情報・イベント部会 自然体験塾、金目ブランドの開発、他

(添田吉則)

悠久のお祭り “国府祭（こうのまち）と金目川の禊（みそぎ）”



国府祭は、毎年 5 月 5 日に大磯の国府本郷の神揃山で行われる五大社の大祭と大矢場で行われる国司祭をいいます。一之宮寒川神社・二之宮川勾神社・三之宮比々多神社・四之宮前鳥神社・平塚八幡宮・総社六所神社の六社が、神揃山の斎場に集まり五穀豊稔・民業繁昌を祈願する県内最大の地域性を持つ千余年の歴史のある古式ゆかしい祭です。

大化の改新（645 年）以降、国司が各地（国）に着任すると、新しい国司はまずその地域の大社に参拝いたします。この行事は

時間と費用がかかるため、国司は巡拝する神社の御分霊を国府近くの神社に祀る（総社の始まり）ようにしました。そこで、各神社の御分霊を総社（六所神社）に納めて頂くために神輿を以て国府に集まるように致しました。これが国府祭のはじまりとされております。比々多神社の神輿が渡御の途中、金目観音前の金目川に浸り禊を行うのが慣例で、今年も見物客で賑わいました。

さてさて、神揃山での“座問答”では何が話されているのでしょうか、“一之宮はどっちか？ 国境はどこか？”・・・「いずれまた明年まで」として終わる。（柳川勝正）

愛でる景観の調べ 一金目自然景観巡り一

金目エコ自然景観部会長 柳川三郎

5 月 5 日、金目自然景観巡りがあり、名ガイドの下、自然豊かな道野辺を歩き、きれいな野の花を眺め、耳に響く野鳥の鳴き声を聞きながら 人と人とがふれあう楽しいひと時を過ごしました。

景観 1 国府祭 金目川の清き流れで神輿の禊に感動(前項の写真)。



金目川の上に泳ぐ色鮮やかな鯉のぼりと富士山、観音橋の景観がさわやか。

景観 2 明治の文化村・自由民権のかない道 今も往時を偲ばせ、和む風情。寂靜寺開祖、円仁和尚がそこに
いるようなたたずまいの梅の古木、外の竹林、遠く桃の花も望め、心落ち着く景観。

景観 3 田子嶺 見えたぞ！ スカイツリー大人気、双眼鏡が威力を発揮、しっかりと捉えてご満悦。

景観 4 里山 耳にした囁きをオオルリだと教えてくれた。姿は葉蔭だったが、金目の高い自然度を実感。

景観 5 平氏ヶ入 整備された耕地と温かい自然が参加者を歓迎。昼食時、隣同士が新しい友人に。

景観 6 竹林 5年の苦労が実り、自然のほほえみ返してハウチャクソウが群生。うれしい自然のお礼を目の
当たりに、マイナスイオンで健康を高め、静かな笑顔があふれ、歌も飛び出す最高のステージ景観。

景観 7 雷電富士景観 南金目神社の奥に緑と水道橋と初夏の富士、清浄な景観。

景観 8 金目川と宗信寺 澄んだ流れに魚影、寺には江戸末期の俳人、花昌亭百亀の句碑有り。

野菜を作りたい、でも場所がない、

塾生 樋口久美子

そして育て方がわからない、を解消!!

産業部会員の他金目地区内外から11名が塾生として参加し、今年も5
月に野菜塾が始まりました。参加者全員で意見を出し合い、トマト・キュ
ウリ・ナス・ピーマン・カボチャを植え付けました。害虫除けにミントを
植え無農薬での栽培にチャレンジしています。日曜日の早朝に集まり、草
取り、添え木、ネット張り、そして収穫を行っています。草取りは大変で
すが、「カボチャの授粉はこうする」とか「ナスは3本立てで栽培しよう」



とか、おしゃべりしながらの作業はアツという間に時間が過ぎ、息子は花を摘んだり、虫を捕まえたりと自由に
楽しんでいます。昨年はキュウリ・ナスが食べきれない程に実り、収穫が盛んな時期は作業後に採りたての新鮮
なウリやトマトを畑で食べて元気をいただきました。今年は台風4号の雨風で苗が倒れるなどの被害を受けたの
で、倒れた苗を起こして手当てをし、キュウリは種を植え直したりして再挑戦です。この台風にも負けずに実を
つけているナス、トマト、キュウリもあり、おいしくいただいています。夏本番、これからの収穫も楽しみです。

おいしかったよ！ 竹の子ごはん！



6月10日(日)金目小横ふれあい広場にて、竹の子まつりが
開催されました。今年で3回目を数えるこのおまつりは、金目地
区の竹林整備で切出される竹を使用している事が特徴です。

この日は竹製おもちゃ、金目おはなしの会の皆さんによる読み
聞かせなどの企画が用意され、100人近い参加者全員に竹の子
ご飯が振舞われました。

会場では竹製おもちゃで遊ぶ親子や、竹馬の作り方を熱心に聞

き入るお父さんの姿も見られ、終始和やかな雰囲気つつまれていました。

今回の新企画は、「竹の子ご飯のお箸は自分で作ろう！」というもので、一生懸命箸作りに取り組む皆さんの姿
が印象的でした。横着をして荒削りな箸を使った筆者は、トゲが刺さる、つまみにくいなど散々な思いをし、き
ちんと仕上げられた箸の使いやすさ、箸の形状のありがたさをあらためて知ることができました。

つきっきりでおいしいご飯を炊いてくださった、ボランティアお二人のお話では、釜でご飯を炊くときは、ワ
ラを使うと火力がきつくなり過ぎず良い具合に炊けるそうです(この日は薪でした)参考あれ。(松本勇司)

<編集後記> 金目エコの会員数73名の内41名(他に委任状12名分)が出席して総会が持たれた。金
目エコが関係する今後の行事には、8月灯ろう流し・10月家庭学級・11月収穫祭があります。ぜひ多数
のご参加をお願い致します。

金目エコだより

発行日 平成 24 年 11 月 30 日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

盛況 金目収穫祭

金目エコ歴史文化部会 小宮 和 high



11月11日朝から雲が厚く、午後には雨との予報でしたが、雨が降らない事を祈り、屋外(金目ふれあい広場)で開催された。フリーマーケット等出店も早々と準備され、10時の開会式には皆さん集まり、大勢の人が“お米”引き換え券にならび、アトラクションの各地域の太鼓披露では四地域のたたき合いで見る方も演奏者にも緊張感が見えました。

昼になり、金目の“ごはん”と“トン汁”が配られました。一回目のごはんが完売、二回目がまだこない。|トン汁もだんだん少

なくなってきた」「足りない」「どうしよう」まだまだ列がならんでいます。味噌・わかめ・豆腐・長ネギを買ってきて、火をおこし直しやっとセーフでした。トン汁係の女性陣の顔がふだん見られない様な緊張感のある現場でした。これが、災害時のたきだしであったらもっとハプニングがあったのかと思わせる光景がありました。

金目のお米は金目川の水で育ちます。金目川の源流は、春嶽山の沢の岩間からこんこんと湧き出ています、それも何か所からも湧き出て金目川になります。

水源を守るため、みずほ小学校の平成十年度六年生が、創立二十周年を記念して植林しています。その場所を11月28日に見に行く予定です。

金目灯ろう流しに参加して

金目中学校 2年 松本 ひかる



8月11日親水公園で12回目の灯ろう流しが地域3団体競演の太鼓で盛り上がりから始まりました。

昨年は震災の影響もあり、被災地を心配する言葉が書かれた灯ろうが多く見られましたが、今年は明るい願い事が目立ちました。

途中から雨が降ってきてしまいましたが、子どもから大人までそれぞれの思いのこもった灯ろうが、「平和」の二文字となったときはとても感動しました。また、会場には私たち中学生だけではなく、地域の様々な方たちがいらしてました。この皆さんと普段出来ない交流をすることができたことは、とても新鮮に感じました。

閉会式では中学生ボランティアからは「来年、また参加したい」という声も聞かれました。

私はボランティアとして参加出来ませんでした。仲間が楽しそうに活動する姿を見て、来年はぜひボランティアとして参加したいと思いました。

(チャレンジ金目 55問 歴史検定3級)

第3問 金目川の大堤は「御所様堤」と言われていますが、この大堤を築いた「御所様」とは、誰のことでしょう。 ①足利尊氏 ②北条氏康 ③武田信玄 ④徳川家康 (答えは裏面)

子ども夏まつり・そうめん流し にぎやかに

金目エコ産業部会 平井 保二郎

7月28日(土)金目公民館で開催された子ども夏まつり・そうめん流しに参加した51名の子ども達は、お話の会、うちわ作りに参加し、金目エコミュージアムの先生による金目の歴史を学びました。さらに、公民館運営委員の皆様、ボランティア中学生14名のお兄さん、お姉さん、金目エコの会員が準備したそうめん流しに舌鼓を打ち、水鉄砲に目を輝かせていました。中学生のボランティアの皆さんは最後の片付けまでよくお手伝いをしてくださいました。



子ども達の輝く目、中学生の一所懸命手伝う姿を見ることができ、とても幸せな一日でした。

驚きの連続! ～北金目を歩く～

記録担当者(大西景子・久保田友紀・秋山幸恵・近藤きよみ)の報告書より



家庭教育学級第4回は、「もっと知ろう!楽しもう!金目再発見“かない塾”」で、金目エコミュージアムの講師の方に、金目川御所様堤～親水公園～北金目神社～塚越古墳公園をガイドして頂きました。公民館を出発し、2時間ほどの道のりでしたが、ガイドの方の話を聞きながら、また友達たちと話をしながらの時間はあっという間でした。

金目に住んで20年になりますが、はじめて知ることばかりで、驚きの連続でした。特に印象に残ったのは、大昔の金目川は流れが変わっていた(西郵便局の方に流れていた)こと、そして北金目神社の象の彫り物でした。

また親水公園は、4種類のどんぐりの木があり、ホタルの観察もできる自然の宝箱のようでした。塚越古墳は前方後方墳という珍しい形で、県内最大規模であるということもわかりました。

自分の住んでいる金目には知らないことがたくさんある事に気づき、また子供達を連れて歩きながら自然や歴史を探検し、私なりの、これからの子ども達に伝えるまちづくりをしてみたいと思いました。

地名シリーズ 片岡 西海地境 (サイカチザカイ)

片岡地区の北東部にて岡崎との境にある地形地名

① サイ(西)は、サキ(裂・割)の転用で「割れた谷間の地形」の意。カイ(海)は、カツの連用にて「崩壊地形」を示し「**傾斜して段差のある谷間の水辺**」の意か。

② 一方、マメ科の落葉樹であるサイカチ(皂莢)が生い茂っていたからとか。棘のある木のため村落の境に植え付けた等、サイカチ(皂莢)の木に由来する地名という説もあります。

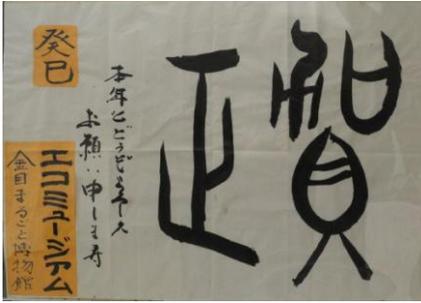
この地名は、江戸期から明治22年まで岡崎地区にあった旧村名であり、小田原の武家屋敷跡にも「西海子」があり、屋敷地内に棘のある大きな皂莢が茂っています。(柳川勝正)

編集後記 金目の一大イベント“収穫祭”が済み、冬を迎える季節となりました。

当博物館では地区内の名所旧跡に表示板や立札を建てる[サイン計画]が動き出しました。やがて出現する看板にご注目下さい。12/12～16日「金目の秋の写真」を募集しています。080-1043-2930(富樫)までお問い合わせ下さい。(第3問の答え ④)

金目エコだより

発行日 平成25年1月23日
 発行者 エコミュージアム金目まるごと博物館
 広報部
 連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101
<http://hiratsuka.ihokyooyu.net/area/kaname>



金目エコミュージアムを 今年もよろしくお願ひ申し上げます。

委員長 米村康信、副委員長 柳川勝正

金目地区のホームページ“悠久と癒しの郷 金目”が、平成24年12月3日、平塚市内の地域情報ホームページ「ちいき情報局」内に開設されました (<http://hiratsuka.ihokyooyu.net/area/kaname>)。

この金目地区のホームページの中にある「投稿記事の分類」の「エコミュージアム金目まるごと博物館」をクリックすれば、金目エコに関する情報が得られようになりました。是非、ご利用ください。なお、携帯の場合は、こちらのQRコードから、または、<http://hiratsuka.ihokyooyu.net/mobile/>へアクセスしますと情報が得られます。



金目エコ叢書『金目の俳句』発行！



歴史・文化部会の可奈比塾では、月1回金目の歴史と文化について勉強しています。その中で江戸時代から金目でも盛んであった俳句を取り上げ、その活動の様子を文献調査と聞き取り調査によりまとめ、可奈比塾叢書 No.1『金目の俳句』として平成24年12月1日に発行しました (A4・28頁)。

金目観音万句碑や北金目神社の俳句額の紹介の他、特に明治44年に片岡で結成された俳句の会「日曜会」の活動が詳細に記述されています。(添田吉則)

木は育っていた～春岳山の植林地を訪ねる～

みなさん、金目川の水源地・春岳山に、15年前みずほ小学校の児童が植林したことをご存知ですか？

水源地の維持管理を行なっている金目川水害予防組合や秦野市森林組合の指導を受けて、1998(平成10)年みずほ小学校が創立20周年記念事業として行ないました。100年前にも、郷土の自由民権家・宮田寅治らによって植林されたこともあり、この素晴らしい事業を追体験するため、歴史・文化部員ら11名は、昨年11月28日に現地を調査しました。

ヤビツ峠から柏木林道を30分近く下り、間伐が行き届いた桧の尾根を20分ほど急登したところに、みずほ小の植林地がありました。当時の記録では、6年生児童39人が80cmほどのブナやケヤキの苗木を100本ほど植えたとあります。植林から15年、急な斜面や鹿の食害を乗り越えて、高さ4～5mに育っている立派な木がありました。しかし、倒れたり枯死したものもあり、全部は確認できませんでした。苔むした「記念標柱」を洗い流し、乱れた鹿よけの柵を修理(写真)しました。

さらに上の尾根にある平塚漁協の植林地には「森の豊さが海を育てる」の標柱もあり、金目エコとしても、この歴史的な遺産を守り育て、環境問題にも取り組む必要を感じた調査・研修登山でした。(池田 弘)



力作がいっぱい ー秋の自然観察会（どんぐり工作）ー

金目エコ自然体験塾 露木 正巳



11月23日（祝日）金目公民館で、どんぐり工作を行いました。参加者は児童27名に幼児4名、そして保護者9名、合計40名でした。当初は金目親水公園でどんぐりを観察し、その場で作品を作る予定でした。しかし、朝から雨が予想されたため、金目公民館に場所を変更し、スタッフが用意した5種類のどんぐりを使って実施しました。

おはなしの会との共催で行い、前半はどんぐりや秋の自然を題材にした絵本や紙芝居の読み語りを楽しみました。後半は図書室に移動してどんぐり工作を行いました。どんぐりについての解説を聞いた後、10人のスタッフの指導のもと制作を始めました。あらかじめ見本を作って用意しておきましたが、参加者は自由な発想で作品を作っていました。どれも力作ぞろいで、玄関などに飾るとよい置物になりそうでした。

今回は初めての試みとして、作品を入れて持ち帰るために、広告紙を使って手提げ袋を作りました。手で提げられるための紐がついたしっかりとした袋ができ、どんぐり工作で作った作品を入れて大事に持ち帰っていました。

これからも春と秋の2回、自然観察会を行いたいと思います。親子で参加して、身近な自然に関心を持ち、自然を素材にした工作を楽しんでいただけたら幸いです。

うまい！ うまい！ 芋煮会

産業部会 橋本進



12月2日（日）金目公民館にて、産業部会員と野菜塾生が丹精込めて育てた里芋を使って芋煮会が開催されました。

野菜塾は、11名の一般応募塾生と産業部会員の総勢22名の賑やかな会で、きゅうり・トマト・ナス・カボチャ・里芋・落花生・大豆・黒豆と多品種の無農

薬栽培を手掛けています。きゅうり・トマトは、昨年5月の季節はずれの台風で大きな被害を受けましたが、本日の主役である里芋は、畑の環境の良さに加え、草取り・土寄せ等面倒をみたかいがあり、すこぶる良質な出来で、収穫祭では飛ぶように売れた自慢の品です。

ゲスト参加者からも熱々の里芋をほおぼりながら“うまい！うまい！”と声が上がったのは言うまでもありません。会が進むにつれ来年は何を作付けしようかとの話題があちこちから出て、一段と盛り上がった雰囲気となり、中村産業部会長よりもち米作りや、カルガモ農法も検討中とのことでした。

来年度も塾生の参加を募り、楽しく農作物を作り、地域の仲間とのコミュニケーションをより深め、金目エコミュージアムの発展につながる活動を広めていきたいと考えます。ありがとうございました。

《3月の公民館日より、25年度野菜塾塾生を募集します》

金目の四季彩



梅

「むめ（梅）一輪 一らんぼしの あたたかれ」（嵐雪）

春の暖かさで梅の開花が待たれる今日この頃です。

梅は、大昔から日本にある桜と違って、奈良時代に中国から渡ってきた外来種です。当時は、珍しいのもてはやされ、万葉集では桜よりたくさん歌われました。

北金目・不動院の梅林や根下・寂静寺の古木がすばらしいです。
(池田 弘)

編集後記

金目のホームページ（HP）が立ち上がり、これからは情報発信の機会が多くなります。皆様も時々HPを開いて下さい。また、2月には「金目の秋」写真展（金目公民館）、3月には秋山博墓前祭、4月には桜まつりが行われます。

金目エコだより

発行日 平成25年4月30日

発行者 エコミュージアム金目まると博物館
広報部

連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

嵐の後の桜まつり

4月7日10時より、金目桜まつりを開催しました。

金目地区は、昨夜からの暴風雨で金目川が避難水位に達し、避難勧告が出され、金目公民館は避難場所になりました。7日早朝には暴風警報、洪水警報、大雨警報が次々と解除され、朝8時頃には雲間に太陽が現れるほどになりました。しかし、まだ強い風のため、今年の桜まつりの会場は金目ふれあい広場から金目公民館に変更しました。

当日は金目川土手の桜は満開を過ぎ、花吹雪すら観ることが出来ませんでした。また当日の場所変更や天候等により、例年より人出は少なかったのですが、広場に貼られた会場変更の案内を見て公民館に来られた方も多く、桜まつりが地域に定着したことが伺えます。琴の調べを聞きながらのお茶席はたいへん盛況でした。昔遊びのコーナーではコマに興ずる笑顔が印象的でした。ふれあいマーケットには15店が出店されました。歴史文化部会が主催した今年の史跡文化財めぐりは吉沢方面にも足を延ばし、延命寺の地蔵菩薩や布施氏館跡、小銅鐸発掘跡を見学しました。

会場に来られた方々や出店者およびスタッフ等は思いのほか楽しい一日を過ごせたことと思います。

(米村康信)

晴天の下、秋山博墓前祭行わる

産業部会 黒部 栄三

今年も好天に恵まれた3月20日、恒例の「秋山博墓前祭」が南金目の寂静寺で行われました。この催しは平塚市が平成13年度に「新世紀ひらつかルネッサンス」と銘打って、地域の歴史、文化・伝統を再評価し、ふるさとへの誇りと愛着をはぐくむとともに、将来のまちづくりを模索していく手がかりの一つとするというコンセプトにもとづき、平成15年にふるさと歴史再発見事業の一つとして当時の吉野市長も出席し、第1回の「墓前祭」が行われたと記憶しています。



平塚市内には盲学校を始め、ろう学校や養護学校、農、商、工業高校の他、普通科高校も有ります。日本全国見回してもこれだけの学校が揃っているところは見あたらないと思います。

金目地区は「明治の文化村」と呼ばれ、篤志家や教育熱心な人が多かったようですから、平塚の教育の先駆けとして存在したのでしょう。これからも我が郷土に誇りを持ち、先人に負けない金目地区にしていきたいと思っています。

(チャレンジ金目 55問 歴史検定 3級) 第4問 明治6年寺子屋が「温知館」となり、金目で最初の教育機関の一つとなりましたが それはどこでしょう。

①広川善福寺 ②北金目不動院 ③青柳妙現寺 ④片岡龍源寺 (答次頁)

自然景観部会に参加して

自然景観部会 小林直幸



金目まるごと博物館の発足後、自然景観部会に入り、柳川部会長始め各役員や良き仲間と出会い、ここまでやってこれることができました。様々な経験者が揃い、各人がそれぞれの役割に携わることで、自然景観部会がなりたっていると思う次第です。そして、自分もその中の一員として活動に参加できる事は、大変ありがたい事です。

自然部会会員として“自然を愛する心”が大切な事だと思っています。これは誰しもが思う事ではありますが、会員として微力でも

行動を起こさなければと思います。日本の文化や教えにも有ろうかと思いますが、木や石にも神が宿る、そのよ
うな心を次代に受け継いでいく必要があると考えます。自然景観部会は昨年、北金目神社と年末には塚越古墳公
園、春には南金目神社、広川の八幡神社、千須谷の熊野神社に会員が育てた紅葉を植林しました。そのほか猪久
保の竹林を、地主さんの了解のもとに、散策の出来る「憩いの場」に変えるべく、岩男さんをリーダーに週一回、
ボランティア活動で整備を行っています。未だ道半ばですが「継続は力なり」を信じて活動をつづけたいと思
います。きれいに整備された竹林や、植えた紅葉がしっかり根を張り、大山おろしにも耐えて、この春に若々しい
葉が出た事を確認してペンを置きます。 (短歌) 金目川 清き流れに カルガモの 馴れし姿に 心癒され

とっておきの散歩道 — 根下の里山めぐり —

『金目の自然・景観ガイドブック』(p.10-11 参照)を片手に南
金目・根下の里山を家族と散策。観音橋を渡り、急登の血噓坂(ち
むせざか)を登りきった高台が田子嶺(たこみね)。ここは金目の
富士山絶景ポイントNo. 1ではないだろうか。小休止後、根下の
集落を抜けて右手に大山を眺めながら、三枚畑の急坂をのんびりと
登る。農業技術センター裏手に出るこの付近が、標高75m程の
コース最高点。金目の街並みが良く見える。

北西に進み右手にわずかに下った所が、我が家のお気に入りスポ
ット平ヶケ入(へいしがいり)。ここで昼食。とっても静かな場所。聞こえるのは小鳥のさえずりと、草木の揺
れる音のみ。昼食後、南金目神社へ下り、観音橋を経て自宅へ。高台からの眺めと、静かな1日を過ごした
い方にはお勧めのコースです。ぜひお出かけあれ! (国道ウォーカー)



地名シリーズ

しょう たい くぼ
広川 正 躰 窪 広川の南西部にて千須谷との境にある地形地名・歴史地名

ショウ(正・松)とタイ(躰・台・代)とクボ(窪・久保)を重ねた地名。①ショウは(庄・荘)と同じで荘園に見られる地域名称にて、集落を表し郷と同じである。またシオ、シボの転用にて谷口の縮んだ、萎んだ地形の意か。②タイは山と山との間の低湿地帯を言い、③クボは周囲より窪んだ所である。

従って、台地や山に囲まれた低湿地を言う。周囲には、長山、丸山、コナラ山等がある。

なお正躰窪に隣接した内沢遺跡では農耕祭祀に用いられたと推測される小銅鐸が発見されている。(柳川勝正)

編集後記 今年の桜は平年より10日ぐらい早く、桜まつりの時は葉桜でしたね。4月7日の豪雨により金目川の堤防があわや決壊というところまで浸食されました。早急に護岸工事ができることを期待します。

(第4問の答え ①)

金目エコだより

発行日 平成25年 8月 1日

発行者 エコミュージアム金目まると博物館
広報部

連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

金目からの世界文化遺産 富士山

自然景観部会長 柳川 三郎



今年は山梨県側の空が曇り、その前に霊峰の富士を仰ぎみることが多い。富士山がまるで浮世絵に描かれている如く、すっきりとしっかりと見えます。エコミュージアム金目まると博物館の自然景観部会は7年もの前に富士山のビュースポットベスト12を総意で作り上げました。そして、金目の自然・景観ガイドブックのトップページとして発行し、4,000部が間もなく完売の状況です。

今年の6月22日に世界文化遺産の登録が決定して満願の喜びにひたる1人です。ダイヤモンド富士を追いかけて、3月・9月の中下旬の午後5時30分頃に、毎年、金目の各地を回っています。厚い雲で、とても富士山を仰ぎみることは無理と思っていると、富士山の頂に沈む太陽の力は雲をもものともせず、堂々たる自然美を見せてくれます。そして沈んだ直後は、黒いシルエットがとても大きな山容をみせてくれます。沈む太陽は、私に明日も頑張れとのメッセージを伝えてくれます。本当にありがたい富士山です。

自然観察会に参加して

金目中学校2年 梁取 莉子



5月18日(土)の自然観察会に参加して地域の人々や小さな子、自然とふれあうことができ、とても楽しかったです。

私と一緒に自然についての出問を担当してくださった地域の方々と楽しく会話したり、一緒に小さな子に問題を教えたりして「人と関わることって、こんなに楽しくて面白いんだな。」と思いました。

それに、小さな子達も私の説明をしっかりと聞いてくれてとてもうれしく、なかには興味を持ってくれた子もいたので「今回参加してよかった。」と思いました。また、植物や野鳥などの自然についても、意外と知らないこともあり、この機会に知ることができて良かったです。特に虫は、地上で数日くらいしか生きることができないのに、その数日間は一生涯懸命に光り子孫を残すことに感動して生き物のすばらしさを知ることができました。私は、このような自然のすばらしさや人と関わることの楽しさを小さな子達にもたくさん知ってもらいたいので、この先もずっと自然観察会を続けてほしいと思いました。

地名シリーズ 千須谷 エゲ坂

千須谷のほぼ中央にある地形地名

エゲ(会下、恵下、絵下)とサカ(坂、逆、酒)を重ねた地名 ①エゲはエグ(抉、剝)と同じで、「浸食崩壊」した地形を言い、②サカ(坂、逆)は傾斜地を言う。従って谷間の傾斜地にある畑と考える。③また、エゲは仏語で禅宗や浄土宗などの師から教えを受ける所と言われている。近くに曹洞宗龍雲寺がある。また寺田縄に「会下後」という地名が有り、近くに曹洞宗の吉祥院があります。

(チャレンジ金目55問 歴史検定3級) 第5問

千須谷にある出羽三山供養塔の三山とは、月山、湯殿山ともう一つの山はなんでしょう。

①海山 ②羽黒山 ③天王山 ④琉球山

(答えは次頁)

野菜塾の塾生だより

塾生 杉浦留美



平塚に越してきて4年目、子供達も幼稚園・小学校に入り、少し落ち着こうかな？と思っていた時ふと目にしたのが野菜塾の塾生募集案内、「うわーやってみたい！年会費 1,000 円!!安い！」もともと土いじりが好きな私は軽い気持ちで決めました。開講式に出てみると予想どおり？元気な年配の方が沢山出席されていて、ちょっと場違いかしら？と思いながら説明をきいていると、本格的に野菜の育て方を教えていただけそうなので実践が楽しみになりました。

始めてみると野菜を作るのは本当に大変で改めて農家の人は凄いと感じました。ただ苗を植えて水をやればい
いわけではなく、学校の勉強をするより難しく頭も使い体力も使うので野菜塾を終えて帰るとリフレッシュされ
て気持ちが良いです。おぼつかない私に農具の使い方・種まき・芽掻等を楽しいおしゃべりをまじえながら親切
に教えて下さり作業は楽しいです。初めての田植えも皆さんと泥んこになりながらも終わることができ秋の稲刈
りが楽しみで、このモチ米でついたお餅は美味しいだろうなと想像を膨らましています。育てている大豆でお味
噌も作るそうです。子供を連れての作業に不安はありましたが、優しく受け入れてくださり、子供も今は興味が
なくても心の片隅に母がこんな事をしていたな、土や野菜を作る大変さ、楽しさを通じて人や物を大切にする心
が養われればよいなと思っています。ちなみに収穫した野菜は大変美味しく頂いています。

金目エコ 25 年度総会



平成 25 年度総会は 5 月 10 日に開催され、委員長挨拶の後、議事（活動報告と決算等、活動計画と予算）に沿って進行し、活動報告では 3 年間の第二次計画の最終年でもあり、50 項目以上の事業内容の濃い活動報告がなされ、それに伴う会計報告も満場一致で承認されました。

本部事業としては五大事業活動の他に、今年が目玉活動として平塚市博物館との共同特別展示展（コラボ）が実施されます。更に、本年度から始まる 3 か年間計画としてサテライト・トレイル

整備等のサイン計画が進められ、「みんなが学芸員」を謳った「ガイドボランティアの会」も推進されます。また、各部会の活動として、自然景観部会では金目の地形の立体模型作りや生き物調査、歴史文化部会では金目エ
コ文庫の推進、産業部会では味噌作り、情報イベント部会では金目ブランド商品開発等が新たに活動計画に加え
られました。

尚、各種委員会等の各役員が決まりましたので、ご紹介します。

○本部役員 委員長 米村康信、副委員長 秋山博、会計 平井保二郎、監事 鷲尾昭夫、富樫正一、柳川三郎、
会計監査 渋谷精一

○推進委員（*は部会長）自然景観部会 柳川三郎*、井上守、富樫正一、柳川幸三。 歴史文化部会 秋山博*、
小宮和高、添田吉則、池田弘。 産業部会 中村正賢*、猪俣俊雄、渋谷精一、平井保二郎。

情報イベント部会 米村康信*、松本勇司、佐藤美智子、柳川久子。 特別推進委員 石丸熙、伊東尚美
黒部栄三、露木正巳、土井浩、米村和彦。

○ガイドボランティアの会会長 池田弘 ○広報委員長 添田吉則 ○コラボ実行委員長 添田吉則

○サイン計画実行委員長 柳川三郎

(委員長 米村康信)

編集後記 4月にガイドボランティアの会の発足が新聞発表されました。金目の自然や文化財を地域の皆
様方にもガイドをする予定ですので宜しくお願い致します。 (第5問の答え)

金目エコだより

発行日 平成25年 11月 25日

発行者 エコミュージアム金目まると博物館
広報部

連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

<http://hiratsuka.johokyoju.net/area/kaname>

“子ども夏祭り”と“子どもかなひ塾”

◆「子ども夏祭り」は、7月27日金目公民館とおはなしの会、金目エコの共催で開かれ、小学生55名が参加し、12名の中学生ボランティアが応援してくれました。

前半、低学年には歴史・文化部会の柳川勝正氏が「大昔の暮らし」について、高学年には社会教育課の大野悟学芸員さんの「考古学について」の講義（写真）があり、後半は「勾玉作り」のあと、産業部会による「そうめん流し」が行なわれました。

『子ども夏祭りに行きました。昔のじょうもん時代のべんきょうでは、未来人が使いそうな土器があって、うす（注①）やポットみたいな土器（注②）もあって、クルクルしたもようがついていました。まが玉作りではけずるのがむずかしかったが、だんだん丸くなってきてうれしかった。中学生がやさしくおしえてくれました。そうめん流しでは、そうめんだけでなく、きゅうりやトマトやみかんも流れてきて、いっぱい食べました。とてもたのしかったです。』（みずほ小4年 林 健太）

（注①＝木の実をすりつぶす石臼、②＝米を蒸すこしき型土器）



◆「子どもかなひ塾 もっと知ろう金目！親子ツアー」は、10月15日金目公民館と金目エコの共催により行なわれ、小学生16名と保護者ほか10名が参加して、南方（みなみかた）ショートコースを3時間ほど歩きました。

『金目を歩いて感じたことは、金目にはたくさんの歴史があることがわかりました。一番いんしょうに残っているのは金目観音です。

昔、潮汲みの海人が観音像をひろったのはぐうぜんで、すごいと思いました。その観音像の御開帳は60年に一度なので、見られるのはきちょうだと思いました。次にみられるのは2034年だそうで、みてみたいです。

宗信寺では、県立秦野高校、県立平塚農業高校の発祥の地だったことや地理歴史の授業は英語でかかれた教科書を使っていたことなどがよくわかりました。この半日は寒くて雨もふってきたけど、金目の歴史がよく分かって勉強になりました。すごく楽しかったです。』（みずほ小6年 伊藤みなみ）

『やまのてっぺん（注：田子嶺）できもちよかった。うおーきんぐがたのしかった』（金目小1年 樋口りゅうけん）『今日のコースは何回か歩いて説明を聞いていましたが、むずかしくて(?)なことが多かったです。今回は子ども向けということもあってわかりやすかったです。天気が良かったら木の実をひろったり、もっと自然のはなしを聞きたいな と思いました。』（樋口君の保護者）



（チャレンジ金目 55問 歴史検定三級） 第6問

金目の発展に貢献した「秋山 博」や「小林晋斎」が眠る、チムセ坂にある天台宗のお寺はなんと言うでしょう。 ①天徳寺 ②寂静寺 ③妙現寺 ④善福寺 （答えは次頁）

新米に舌鼓 金目の収穫祭



出店者 市川 光春

11月3日の文化の日に、秋の収穫祭が行なわれました。今年で7回目の「金目収穫祭」を迎えたとのこと。

私は、今回の収穫祭への参加は3回目となりました。初めは一般のお客さんとしてでしたが、いつの間にか、お店を出す出店者側に。それはフリーマーケットのお店です。すっかり収穫祭の常連店、市川店として参加させて頂く様になりました。

今年、前日までの雨で・・・金目ふれあい広場での開催が心配でしたが、夜にはあがり、当日の朝にはうす曇と時より日差しが出てきて、この時期としては汗ばむ陽気となりました。

ソーラン節を初め、きよしのすんどこ節、金目4地区の太鼓の披露があり、日頃の練習の成果が十二分に出ており、私も音楽に誘われ、思わず手足が動いてしまいました。また、収穫された新米ご飯、沢山の野菜が入った豚汁を美味しく頂き、お腹がいっぱいになりました！！

そして、フリーマーケットへのお客さんも、10時の開店から1時過ぎまでの間、幅広い年齢の方々にご来店頂き繁盛いたしました。ご来店くださった地域の皆さんありがとうございました。またのご来店お待ちしております。最後に、楽しい日を過ごすことが出来ました。エコミュージアムの皆さん、本当にお疲れ様でした。

金目の四季彩

寂静寺のイチョウ

(付 ノキシノブとツタ)

寂静寺のイチョウの大樹が色づき始めました。雌株です。幹に貼りついていているのは、緑のノキシノブ（軒忍ぶ）と紅葉したナツツタ（夏蔦）です。ノキシノブはシダ植物で、屋根の軒先などに生え、観賞用に「吊忍ぶ」にしたりしました。「忍ぶ草」ともいい、俳句の秋の季語にもなっています。この草を布に摺りつけた物が「忍ぶ緞摺り（しのぶもじずり）」で、百人一首にも詠われています。ナツツタは、夏は緑ですが、秋に紅葉して落葉します。

(池田 弘)



灯ろう流しボランティアに参加



金目中学校3年 福嶋 拓海

今回（8月10日）、初めて灯ろう流しのボランティア活動に参加して、改めて平和などについて実感しました。

僕は灯ろうに火を入れる点火係りで、いろいろな人の書いた灯ろうを見ました。僕はこの先、何があっても挫折しないために「人生に勝つ」と灯ろうに書きましたが、他の人の中には「平和」とか一人ひとりの「夢」、「志望校合格」など、様々なことを書いた灯ろうに思いを込めて流している姿を見て、とても感動しました。

他に思ったことは、それはこの灯ろう流しが沢山の人が成り立っているということです。平和などのことを深く思っている人たちが、灯ろう流しの主催や準備、片づけをし、また灯ろうを流そうと集まって来るのだと思います。こういうことによって平塚から日本全国、そして世界中に平和が広がっていくと思います。

編集後記 金目エコと平塚市博物館との共催で、来年3月15日から5月11日まで、春季特別展「水と生きる里—金目の風土とその魅力—」が博物館と金目地域で開催されます。水の恵みを受け、水と戦って、今の平和な金目があることを展示資料と各種イベントにより解説します。是非ご期待ください。

(第6問の答え ②)